

5 - 4 「百々の貯木場調査隊」 平井小学校（愛知県）

実践の概要

テーマ	百々貯木場
対象とした社会資本	貯木場、矢作ダム、矢作川
学習のねらい（つけたい力）	<ul style="list-style-type: none"> ・平井地域の発展に尽くした人や地域にある歴史的遺産などに興味や関心を持つ。 ・貯木場や矢作ダム等の見学を通してもった疑問や課題を追究することができる。また、追究したことをまとめたり工夫したりして発表することができる。 ・百々の貯木場のすばらしさやそれを守り地域の発展に役立てようとしている人々がいることを知り、地域の遺産を大切にしていこうという気持ちを持つことができる。
展開の概要 ・右図に示す流れで学習の展開を行った	
実践経過	<ul style="list-style-type: none"> ・貯木場の探検後、子どもたちは「調べてみたいこと」「やってみみたいこと」をたくさん持ち、一人学びを始めていった。 ・「貯木場の模型を作りたい」「貯木場の本当の面積を知りたい」という意見を取り上げ、貯木場の測量を行う。さらに、貯木場を造った今井善六さんのお孫さんに、貯木場の様子について話していただいた。 ・矢作川の上流はどうなっているか知りたいという意見から、上流の探検と矢作ダムの見学に出かける。（マイクロバス2台で） ・保存会の会長さんへの聞き取りや豊田市図書館に出かけて調べたこと、これまで体験してきたことをまとめて、ポスターセッション形式で発表会を行った。（参加者は、5年生、3年生、保護者、保存会の方、他） ・保存会の方のお話を聞いて、貯木場にさらに愛着を持つようになった。
主な支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・貯木場の測量（出前講師） ゲストティーチャー ・矢作ダムの見学に対する支援 ・資料等の提供

実践例：第4学年「大発見！百々の貯木場探検隊」

実践報告 / 豊田市立平井学校（愛知県）

『大発見！百々の貯木場探検隊』

～「貯木場跡」「矢作川」「矢作ダム」から学ぶ総合的な学習の時間～

愛知県豊田市立平井小学校 林 博美、川合 信道

1. はじめに

愛知県のほぼ中央に位置する豊田市には、その中央部を南北に矢作川が流れている。その流れは、長野県南部の大川入山に源を発し、長野・岐阜・愛知の3県を流れて三河湾に注いでいる。それは、西三河地方最大の一級河川である。

百々貯木場跡は、その中流域左岸、豊田市百々町に位置している。本校は、貯木場まで徒歩で10分ほどの所にあり、校舎から矢作川の雄大な流れを一望することができる。



河口より43km 地点が百々町

2. 百々の貯木場の概略

(1) 当時の貯木場の価値

矢作川には、江戸時代から昭和初期まで、土場と呼ばれる船着き場や筏の中継地が数多く存在していた。百々の土場もその一つである。矢作川は、かつてこの土場の付近までは川幅も広く、水も滔々と流れていたが、ここから1kmほど上流の平戸橋では、川岸には巨大な岩がせり出し、川幅も狭くなっていた。ここから上流数kmを勘八峡といい、山間部と平野部との境目の付近に百々の土場は位置していたのである。

大正期までの矢作川の水運は、川船による物資の輸送と材木類の川流しに大別できる。川船では年貢米や各地の産物を最寄りの土場から積み出し、河口の湊で回船に積み替えて回路江戸へと送られた。そして、その帰りの荷の干物・穀物や塩などは、最終地である百々やそのすぐ上流にあった古鼠^{ぶっそ}の土場で荷揚げされ、山間部へと陸送された。

一方、下り荷の重要な位置を占めていた木材や竹は、上流から丸太のまま流して、途中で筏に組み直され河口まで運ばれた。筏といっても川幅や流れの速さによって組み方が異なり、各所の筏土場で組み直された。上流から下流への転換点に位置する百々



上；対岸からの風景、下；貯木場の中の様子

土場は、小さな筏を大きな筏に組み替える基地としての役割を担っていた。

百々の土場でその一切を仕切っていたのが、後に貯木場を造った今井善六(1854~1917)〔今井家の当主は代々「善六」を名乗る〕である。

矢作川沿いには、今井善六の他にも材木を扱っていた材木問屋がいた。当時ほどの問屋も材木を川や川岸に貯めていたため、洪水が発生するたびにその所有権をめぐる争いが絶えなかった。そこで、今井善六は、買い付けた材木を保管できる巨大な貯木場の建設を志した。

大正6年11月5日に着工した工事は翌年7月15日に竣工した。総面積は6,267㎡、総工費は約5万5千円(当時の映画館入場料20銭)であった。川岸に石積みの堤防と樋門、そして内側には濠のように石垣を組んだ枡状の貯木池を築き、製材所へのレールも敷いた。樋門を通じて川から直接木材を場内に引き入れ、仕分けと製材を行い、さらに製品として材木を再び川船で送り出せるこの施設は、本来の目的以上に生産効率の向上にも力を発揮した。

完成後の百々の集落は、以前にもまして筏師や職人たち、そして木材で溢れかえり大正末には最盛期を迎えた。

しかし活気を呈していた貯木場はわずか十数年で幕を閉じることになった。昭和初期には、道路や鉄道など陸上交通網が張り巡らされる一方で電力の需要も高まり、1929年(昭和4)に上流に越戸ダムが建設されると、貯木場の運用は困難となりその役割を終えた。

運用期間こそ短いけれども、百々の貯木場は規模も大きく、河川の中流に位置した貯木場としては全国的にも希で、近代日本の林業や交通史を物語る貴重な産業遺跡として高く評価されている。

(2) 現在の貯木場跡地

貯木場跡地は、「樋門」「堰堤」「貯木・材木の分類場」「足場用小堤」「引き上げスロープ」「製材所跡」などが、今も当時の姿を概ね残している。そして、地元の保存会のみなさんによってたくさんのカキツバタが植えられ、その中を散策するための遊歩道も設置された、美しい公園になっている。

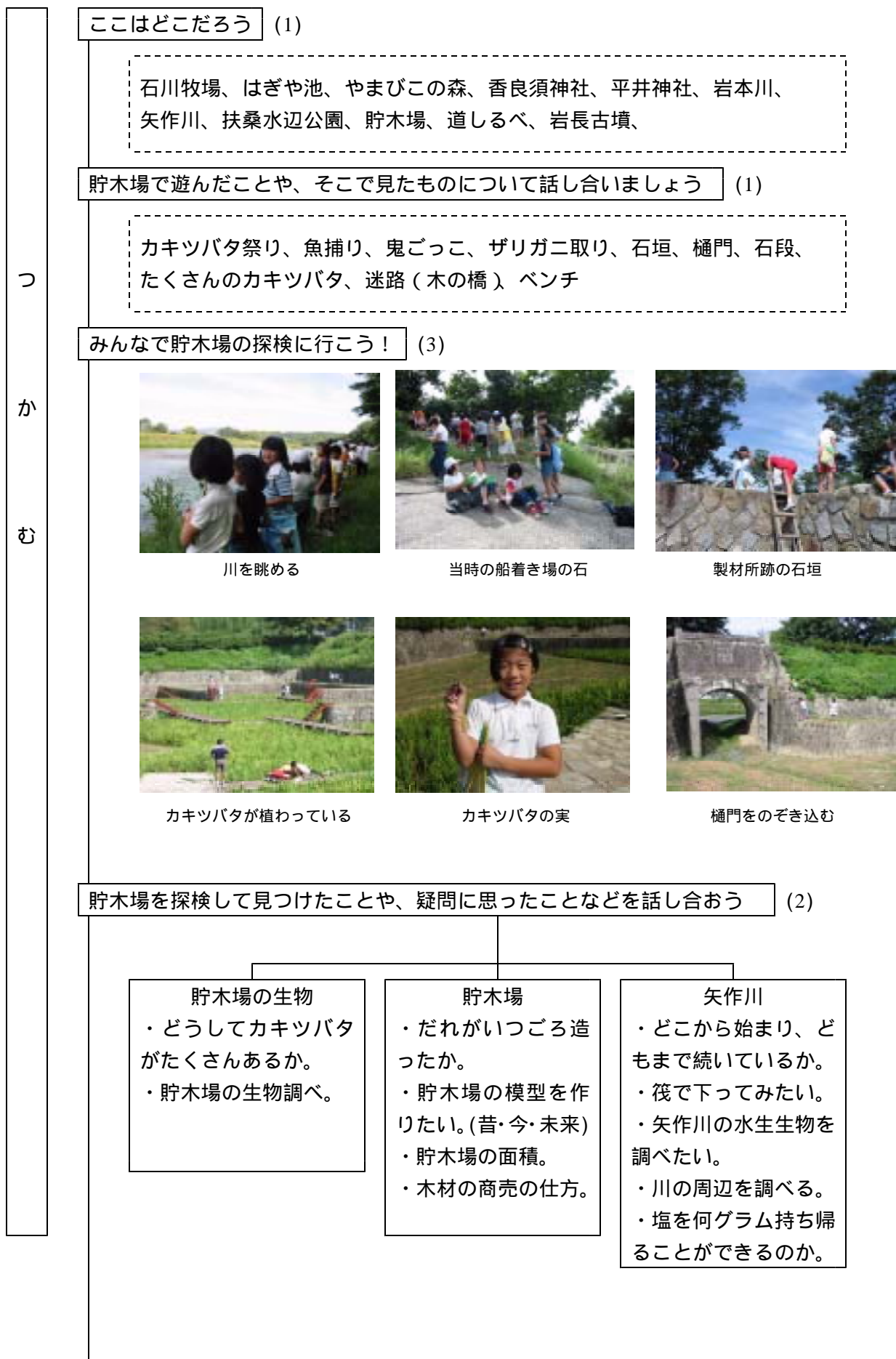


カキツバタと遊歩道

3. 単元目標

- ・平井地域の発展に尽くした人や地域にある歴史的遺産などに興味や関心を持つ。
- ・貯木場や矢作ダム等の見学を通してもった疑問や課題を追究することができる。また、追究したことをまとめたり工夫したりして発表することができる。
- ・百々の貯木場のすばらしさやそれを守り地域の発展に役立てようとしている人々がいることを知り、地域の遺産を大切にしていこうという気持ちを持つことができる。

4 . 単元展開の構想図 (全30時間)



もっと詳しく知りたいな。それぞれの課題を決めて、調べる計画を立てよう (2)

<p>カキツバタ なぜカキツバタ が植えてあるか ・保存会の会長さん に聞く</p>	<p>貯木場の歴史 だれが、何の ために造ったか ・資料で調べる ・子孫の方に聞 く</p>	<p>貯木場 どんな作りにな っているのかな ・模型を造る ・広さや長さを測 る</p>	<p>矢作川と水運 上流、下流はど うなっているか ・行って川の様子 を確かめる ・資料で調べる</p>
--	--	--	--

さあ、疑問をどんどん解決するぞ！調査開始！！ (13)

- ・地域のお年寄りや会長さんに聞き取り調査をする。・図書館で調べる。
- ・貯木場の大きさを調べる（測量）。・善六さんのお孫さんにお聞きする。
- ・矢作川の上流の探検。・矢作ダムの見学。・インターネットで調べる。

現地に行って、貯木場の大きさを測り、どのように使われていたか追究する

深
め
る



測量技師のみなさんから器械の使い方を教えていただき、貯木場の測量をする



川面がどのくらい低くなったか測量する

今井さんから当時の様子を聞く

次の疑問の解決のために、矢作川の上流の探検と矢作ダムを見学する



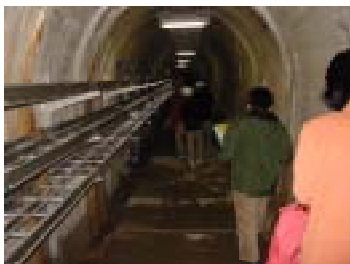
堰堤の上でダムの外観の説明をうける



監視室の見学



ダムの説明を聞く



堰堤の中の通路



わかったことをまとめよう (5)

- ・ B紙にまとめる、・ 模型を作る、・ 劇風にする、・ 説明とクイズ形式にする、
- ・ ニュース番組風にする、ほか

みんなで教え合おう (3)

- ・ 5年生、保護者、保存会の方々に聞いていただく。
- ・ ポスターセッション形式の発表にして、質問を受けやすくする。

ま
と
め
る



歴史について発表



真剣に聞き入る参加者



矢作ダムの紹介



未来の貯木場の模型



未来の姿について説明



矢作川の水運について発表

5 . 実践の概要

【つかむ段階】

ここはどこだろう

3年生の地域学習で、身の回りにある自然や施設の他に、遺跡や遺物なども見てきた。だが、子どもたちにとって遺跡や遺物などの多くは、それほど身近な存在ではなく、年齢的にいっても理解しがたい物が多かったように思う。百々の貯木場も、カキツバタのきれいな公園というぐらいにしか子どもたちの目には映っていなかった。

しかし、学年が進み、身の回りの事象に対して関心が高くなり、追求力も高くなってきた子どもたちに、総合の学習でこれらのものに主体的に取り組みせることは、意義のあることと考えた。また、本学級には転校生もあり、転校生に校区にあるいろいろな施設や遺跡などを紹介するよい機会と考え、写真を見ながらいろいろな場所を確認していった。



貯木場内にある今井家の「印」

貯木場で遊んだことやそこで見た物について話し合おう

先の写真の中でも多くの子がよく遊びに行っている貯木場について、経験したことや覚えていることを発表させた。子どもたちからは、

- ・滑って遊んだ、
- ・メダカやカメを見た、
- ・広いから鬼ごっこをした、
- ・カエル、ザリガニ、アメンボ、赤とんぼ、など生き物がたくさんいるよ、
- ・迷路みたいに走り回った、
- ・カキツバタ祭りに行った、

など、たくさんの体験が出てきた。話し合っているうちに、また行ってみたいという思いが強くなっていった。

みんなで貯木場の探検に行こう！

前時に話し合ったことを確認したり、「貯木場の隅から隅まで見てこよう」「他の子が気づかないようなことを見つけよう」となげかけた。子どもたちは新しい発見ができるといいなという気持ちを持ちながら、探検に出かけた。

貯木場を探検して見つけたことや疑問に思ったことを発表しよう

子どもたちは、各自が探検の目的を明確にして出かけていったので、小さな生き物のことまでたくさんの意見や疑問を発表した。それらの中から、貯木場探検で『こんなことをしていきたいな』ということ話を話合った。そして、子どもたちの意見をまとめると次のようになった。

- ・矢作川はどこから始まり、どこまで続いているのか調べる。
- ・今の貯木場には、なぜカキツバタが咲いているのか。
- ・だれがいつごろ貯木場を造ったのか。
- ・貯木場の本当の面積を知りたい。
- ・平井小学校から貯木場までの道を調べたい。
- ・貯木場の生物調べ。
- ・紙芝居
- ・木材の商売のしかた
- ・矢作川の橋のこと
- ・川の周辺を調べたい。
- ・貯木場の今と昔。
- ・塩何グラム持ちかえられるのか。
- ・貯木場の模型を作りたい。

【深める段階】

課題を決めて調べる計画を立てよう

自分が興味関心を持ち、追究したい課題を決め、同じ課題を持つ子同士でグループを作った。

- | | |
|-------------------|-----------|
| ・貯木場の模型作り 昔・現在・未来 | ・貯木場の歴史 |
| ・矢作川の流れ | ・矢作ダム |
| ・矢作川にすむ生き物 | ・矢作川のはたらき |
| ・いかだの模型作り | |

まず、グループごとにどんな方法で調べたらよいかを考えさせた。子どもたちは、インターネットや図書館で調べたり、貯木場保存会の会長さん、子孫の今井さんにインタビューして調べていくという計画を立てた。

さあ、どんどん調べるぞ！！

貯木場の模型を作るにあたって、貯木場見学の際に面積にこだわり、手を広げて面積を測っていた子どもたちは、本当の面積を知りたいと言い出した。また、矢作川に関心を持った子は、矢作川の上流の様子を知りたいということで、上流の見学を希望した。そこで国土交通省にお願ひし、太啓建設会社の方に来ていただいて実際の測量を体験させていただいたり、矢作川上流にある矢作ダムの見学もさせていただいた。学校だけではできない貴重な体験をしたことで、より意欲的に取り組もうとする姿が見られた。

貯木場の測量をしている時には、貯木場を造った今井善六さんの孫にあたる百々の区長さんが、当時の様子を写したパネル写真を持ってきてくださり、子どもたちに話をしてくださった。

その後、さらに調べていく中で、もう一度時間をかけて貯木場の歴史や保存会の方針を知りたいということになり、善六さんの孫の一人、今井洋二さんに学校に来ていただき、詳しく話していただいた。その中で、水門がなぜアーチ型になっているのか、なぜカキツバタが植えられているのかなど、疑問に思っていたことが明らかになった。



樋門の高さを測る



ダムの堰堤を下から観察

【まとめる段階】

わかったことをまとめよう

最終的には、10グループに分かれ、それぞれ調べたことをまとめていった。その方法としては、『粘土で貯木場の模型を作る』『模造紙にまとめる』『クイズ形式にする』『ニュース番組風にする』『観光案内風にする』などいろいろであった。なかには、貯木場の樋門参考にマスコット人形を親子で考えて、作ってくる子もいた。

一番伝えたいことが伝わるように助言をしたが、グループが多いこともあり、一つ一つのグループに指導の時間をかけることができなかった。



マスコット人形「アーチ君」

みんなで教え合おう

発表は、ポスターセッション形式で行った。2グループで1コーナーを担当し、全部で5つのコーナーを設けて発表した。昨年貯木場に関わった5年生に聞いてもらおうと、対象をはっきりさせ、準備を進めた。当日は、保護者や保存会の方だけでなく3年生も飛び入りで参加してくれたので、にぎやかな発表となった。どのグループも自分たちが調べてきたことを自信を持って発表していたが、調べてないことを質問され、言葉に詰まり、調べ方の足りなかったところを反省する姿も見られた。

矢作川の歴史について発表



貯木場の今と昔を
バスガイド風に発表

6. 実践を終えて

子どもたちには、よく知っているつもり貯木場跡地ではあったが、あらためて見つめ直してみると、これまで気づかずにいたものがたくさん見えてきた。そして、調べていくうちに、それぞれは意味を持って存在していることが少しずつわかり、さらに関心や意欲を高めていった。子どもたちが、「水門がアーチになっているのは、アーチの方が強いからだよ」「ここに貯木場があるのは、上流から木をどんどん流してきて、ここにためておくためだったんだ」「むかしの矢作川は、この辺の地域から炭や米を運んだり、海の方から食べ物や塩を運ぶ、道のような役割をしていたんだよ」と、自分が調べたことやわかったことをうれしそうに話しあう姿も、多く見うけられた。

地元には、筏に乗って下っていく船頭さんを見たというお年寄りや保存会の方、貯木場について詳しい方もいらっしゃり、子どもたちが追究を深めていくうえでとても助かった。また、貯木場の測量体験や矢作川の上流と矢作ダムの見学は、子どもたちの追究意欲をさらに強いものにしていった。

学習を通して、地域の方との交流が深まると共に、月一回行われている貯木場の清掃活動に進んで参加し、これからは一緒にこの貯木場を守っていきたいという子が現れるなど、地域の遺産を大切にしていこうという思いを、全員が持つようになった。

貯木場の測量をした時の感想 (10 / 30)


今日、貯木場にそくりょうに行き、最初に、水門の橋の上から川の向こうがわのまわりを計りました。その時に使ったのがトランシットとターゲットというきかてした。計った結果222m14cm4mmでした。mmu(ミリ)まではかゆるなんてすごいなと思いました。次に面積を計りました。ここではテープを使いました。まずテープのゼロの所を持ってもう一人が黄色のまいてある所を持ち角に合わせてゼロの所を持つ人に向こうまで持て歩いて調べました。結果たて46m40cmよ75m80cmでかけて面積が3517.12㎡とわかりました。最後、かゆい先生と水門の下に来た時水門(トンネル)のははかり4m60cmで高さが4m40cmでした。その時私がふしぎに思った事はどうして形がアーチ(四)なのかという事と高さもははも40m代だったのかわる、という事です。見せてくれた大きな写真の説明を今井さんがしてくださった時にわかったのは昔、貯木場には、水が半分ぐらいあったという事、木は一本一本川に流れて来ていたという事、貯木場ができたのは大正6年という事などいろいろな事がわかりました。

矢作ダム見学後の感想 (11 / 7)

高さ100m 横300m、その壁はうが、2こま、ほり入る、アーチダム、ふつうはじょうろ式ダム、車2台分の、はは、うが、(ア)は、強のにもたえられる。昭和46年にかんせい、5年かけてできた。今年で31年目だんのそうさしつはダムの心をう。ハズワードを入れて自分のしもんを見せる、嵐、すこい、きょうたと思いはした。ま作川の家工場、なびに、便う、貯水は、水をする。ともえ川は、さいごに矢作川と交流、そうか、きうで水位を見る、水を出す時、の周、②する時に使うきかい、か、どうした、矢作ダムから水を流して、豊田まで4時間かかると、まわりで安全をたしかめれる。じしんにそなえて、いしんけんがある。のりゅうは、じょうほうけん、じ木反とかあって、文じゅう(ほう)であしらせざる。ちか2Fは、60mF、ダムの中は12F。エレベーターの(5F)ぐらゐある、た所は、ふ、上の中、た、あ、土にうま、てる、かん、じ、中は、トンネルみたい、岩からしみでくる水、か、ま、う、がある、トンネルの中に、しゅう入、み、たいに、水、か、ほ、て、ほ、て、あ、ち、いた、ここが開く時は、こま、い、ち、よう、せつ、の時だけ、常用、洪水、の、し、を、トランシット、か、と、い、ている、ダムを、こ、え、し、ま、う、よう、な、水、か、また、時は、③、レ、スト、か、を、使、う、非常用、洪水、吐、け、し、ま、レ、スト、か、④、

貯木場探検後の感想 (12 / 3)

貯木場は70年前にできた、木をこぶのは、川を使った、そして、下へと流して、木は冬にさる、木を夏に切取、葉が、じ、ま、して、家をたてる、さい、りょうに、ほ、え、ない、た、から、葉、か、か、ある、冬に、切る、木を流すのは、昔、1904年(今から、67、90年前) 70月5日には、一石をなかけた、ど、て、に、木をためて、あ、いた、大水が出る、と、て、に、た、めて、あ、た、木が、流、さ、れ、た、ま、う、た、も、貯木場に、い、れ、と、く、と、流、れ、ない、から、貯木場を作った、貯木場の貯は、た、ぬ、る、木は、木、場、で、『貯木場』水、な、た、70年前に、ダムが、あ、り、ま、た、木を流す、事、か、で、き、な、く、な、た、た、から、貯木場の、木を、た、ぬ、る、と、い、う、仕事、か、で、き、な、く、な、た、70年前、さ、あ、い、に、し、て、カキツバ、を、う、え、た、な、せ、カキツバ、を、う、え、た、か、と、い、う、と、カキツバ、だ、と、大水に、つ、か、つ、て、も、か、れ、ない、から、今井洋二さんの、お、じ、い、さん、が、作、(喜六) いた、ど、て、に、た、めて、いた、木は、キャン、ア、フ、イ、ア、み、た、ら、に、こ、う、ご、に、な、ら、べ、た、横、は、100m、ぐ、らゐ、な、ら、べ、た、石屋さんの、う、え、で、水門の、形、か、ア、チ、形、に、な、た、保子会の人達は、貯木場の、そ、う、じ、を、月、に、1、回、は、し、て、い、る、(草と、り、も)



発表会を終えての感想 (12 / 16)

2月16日(月) 貯木場探検発表会をして

私は、西ちゃん、美南ちゃん、智乃ちゃん、由衣ちゃんと五人で、貯木場の歴史について発表をしました。

2学期がはじまり、初めての総合の日、担任先生が「次の総合学習は、貯木場についてやりまおう」として、私は、貯木場には何回も行った事がある、り、貯木場は何のためにあるか?とか、知、て、る、か?と、思、い、ま、し、た、毎、週、2、日、あ、る、総合で、し、り、う、や、本、な、ど、で、貯木場について、調、べ、て、い、る、う、ち、に、貯木場は、い、つ、て、き、た、か、な、せ、カキツバ、が、生、え、ら、れ、て、い、る、か、な、と、知、り、な、か、た、事、か、た、く、さ、ん、わ、た、り、ま、し、た、お、休、め、の、日、に、智、乃、ち、ゃ、ん、や、お、母、さ、ん、と、図、書、館、に、い、り、て、貯木場、に、つ、い、て、知、り、ま、し、た、お、ん、を、け、の、本、で、読、め、ない、漢、字、や、わ、か、ら、ない、言葉、か、あ、た、り、は、紙、に、写、す、の、か、大、変、な、ら、た、け、と、い、い、た、の、で、い、な、か、た、事、か、わ、か、ら、ず、よ、か、た、す、発表、本、番、の、日、司、会、者、の、苗、ち、ゃ、ん、が、休、ん、で、ま、し、ま、す、司、会、者、さ、た、木、か、や、る、か、と、か、と、こ、せ、つ、の、事、で、お、ん、を、こ、ま、て、は、い、ま、し、ま、し、た、でも、な、ん、と、か、成、功、し、ま、し、た、